



発行所 秋田魁新報社  
秋田市山王臨海町1番1号  
〒010-8601  
©秋田魁新報社 2015年

# 号外

購読申し込み

0120-13-1231

ホームページ

www.sakigake.jp

携帯サイト

m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、当社ホームページをご覧ください。

# ノーベル賞に大村智氏

## 医学賞 寄生虫薬を開発

【ストックホルム共同】スウェーデンのカロリンスカ研究所は5日、2015年のノーベル医学生理学賞を、アフリカなどの感染症に大きな治療効果を挙げている薬剤「イベルメクチン」を開発した大村智・北里大特別荣誉教授(80)に授与すると発表した。年間2億人に使われ、多くの命を救う

発明が、最高の荣誉に輝いた。日本人のノーベル賞受賞は2年連続で23人目。医学生理学賞は12年の山中伸弥京都大教授以来となる3人目の快挙で、日本オリジナルの研究成果が高く評価された。

大村氏は、日本の土壌で見つけた細菌の作り出す物質が、寄生虫に効果があることを発見。1973年からの米メルク社との共同研究でイベルメクチンを開発した。この薬は、線虫類やダニ、ウジなどの寄生虫に高い効果があり動物用の薬として普及した。

動物だけでなく人にも有効と判明。失明することもある熱帯病のオンコセルカ症(河川盲目症)や、リンパ系フィラリア症(象皮症)の特効薬となった。世界保健機関(WHO)は、この薬のおかげで2020年代にいずれの病気も撲滅できると見込んでいる。

授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金800万珞(約1億2千万円)が大村氏ら3氏に贈られる。

大村氏は、日本の土壌で見つけた細菌の作り出す物質が、寄生虫に効果があることを発見。1973年からの米メルク社との共同研究でイベルメクチンを開発した。この薬は、線虫類やダニ、ウジなどの寄生虫に高い効果があり動物用の薬として普及した。

動物だけでなく人にも有効と判明。失明することもある熱帯病のオンコセルカ症(河川盲目症)や、リンパ系フィラリア症(象皮症)の特効薬となった。世界保健機関(WHO)は、この薬のおかげで2020年代にいずれの病気も撲滅できると見込んでいる。

授賞式は12月10日にストックホルムで開かれ、賞金800万珞(約1億2千万円)が大村氏ら3氏に贈られる。



大村智・北里大特別荣誉教授

大村 智氏(おおむら ちとし)35年7月12日、山梨県韮崎市生まれ。山梨大を卒業後、都立墨田工業高で5年間教師を務めた。東京理科大学院修士課程を経て、63年に山梨大助手。東京大で薬学博士、東京理科大で理学博士、東京理科大で理

学博士を取得し、75年に北里大教授。01年に北里生命科学研究所長、13年に北里大特別荣誉教授。89年上原賞、97年コッホ・ゴールドメダル、14年カナダ・ガードナー賞の国際保健賞など受賞。文化功労者、80歳。